

おはようございます。皆さんそれぞれに良い新年を迎えられたことと思います。
皆さんにとって、本年がより素晴らしい年になることを祈っています。

さて、今年のお正月は新型コロナウイルス感染症の影響で、全国各地で例年とは全く異なった様子でした。故郷に帰省する人や初詣に行く人もかなり少なく、多くの方が外出を控えていたようです。そんな中、今年は「凧」の売り上げが例年より多かったというニュースを耳にしました。「お正月には凧揚げて、コマを回して遊びましょう」という歌がありますが、私も子供のころは、お正月によく凧を揚げて遊びました。この凧を英訳すると何と言いますか？皆さん、すぐに頭に浮かんだと思いますが「カイト」ですね。そして、「カイト」と聞いて何を連想しますか。これも、多くの方が昨年末に活動を休止した「嵐」の歌だと頭に浮かんだのではないのでしょうか。「カイト」は東京オリンピックのテーマソングでもあり、米津玄師さんが作詞作曲した曲です。皆さんの中には嵐のファンという人も多いかと思いますが、大晦日の紅白歌合戦で「嵐」が「カイト」の曲に合わせて視聴者にメッセージを送ったことは、記憶に新しいと思います。今日は、この「カイト」の曲に込められた想いについて考えてみたいと思います。

まずは、「カイト」の曲を一緒に聴いてみましょう。 （曲）

皆さん、どんな情景を思い浮かべましたか。まず、冒頭では凧を「憧れた未来」、つまり幼少期の夢に見立てていると捉えられます。小さい頃は凧が上手く揚げられないこともあるでしょう。その夢を追いかけている途中には挫折もあったでしょう。そんな時にお母さんやお父さんが励ましている様子が伺えます。そして、家族の温かさを感じながら、未来への夢が青い空のように確かで美しいものに育っていったのでしょう。また、その過程で自分の夢だけでなく誰かの夢を応援する姿勢も育っていった様子が1番の最後に描かれており、2番、3番の終わりでも繰り返されています。

2番では、その幼少期に描いていた夢が、大人になってみると古く小さいものを感じられたと表現されています。そして新たに大きな夢を抱くのですが、それは「右ポケットに」ということで、しっかり胸の内に秘めて夢を追い求めていくという強い決意が感じられます。ここでは、友やあなた、恋人ですかね？と強い絆で結ばれて共に夢を追いかけていくことが描かれているようです。

そして、3番では「嵐の中」つまり、とても悲しい時や苦しい時でも家族や友人、恋人など周りの人と繋がっているからそれを乗り越え、夢の実現に向かって行けると唱っているように捉えられます。

どんな状況でも風を上手に揚げるには、風糸をしっかりコントロールすることが大切です。つまり、周りの人たちと強い絆で結ばれ、みんなが力を合わせるからこそどんな困難でも乗り越え、夢に向かって行けるということを表現している歌だと考えられます。

小さい頃はオリンピック選手に憧れ、トップアスリートになった今、東京オリンピックでの入賞という新たな目標に向かって、どんな困難な状況も家族、コーチやトレーナー、恋人と支え合い、助け合いながら乗り越えていく、そんな想いが表現された曲だと思います。また、5人が強い絆で結ばれ、力を合わせてトップアイドルまで登りつめ、皆が憧れる存在となった「嵐」のこれまでの足跡を描いた曲にも聴こえます。そして、何もオリンピック選手や嵐だけでなく、夢に向かって頑張っている人全てを応援している曲だと、私は考えます。

今年もまだまだ新型コロナウイルスの影響で、辛く不安な状況が続くと思います。しかし、皆さんも周りの大切な人たちと支え合い、力を合わせてどんな困難も乗り越えて行ってください。皆さんそれぞれの「カイト」が青い大空に向かって高く高く飛んでいくことを願い、3学期始業の挨拶とします。